

生徒の視野を広げ、考える力を育むN I E活動

兵庫県立西脇高等学校 校長 門脇 千里

教諭 桂 文明

1. N I E授業計画

(1) 活動の目標

- 新聞コラムや社説の活用により、読解力や表現力を身に付ける。
- 新聞を各教科の教材としての活用により、身近な出来事や社会全般の出来事が、普段学習している内容と関連していることに気づき、さまざまな事に興味を持ち、自ら考える力を身に付ける。
- 新聞を通じて社会の現状や課題について知り、問題意識を持たせる。

(2) 日程・授業計画（総合的な学習の時間を利用する）

① 1学期

6月22日 アンケート実施

新聞活用授業① 関心のある新聞記事を切り抜き感想等を考える。

6月29日 新聞活用授業② 新聞から関心のあるコラムを切り抜き要約する。

② 2学期

11月11日 新聞記者派遣事業講演会

11月2日、16日、30日

新聞活用授業③ 科学教育類型授業で新聞を活用する。

③ 3学期

1月27日、2月3日 新聞活用授業④ 人権HRの中で新聞活用をする。

2. 実践報告① 新聞活用授業① 関心のある新聞記事の切り抜き

<教科・科目> 総合的な学習の時間 1時間

<日時> 平成27年6月22日

<学年> 第2学年

<対象> 総合的な学習の時間 278人（普通科全員）

<学習活動>

新聞（平成27年5～6月に発行の新聞。6紙混合）を1人あたり2部配布し、興味ある記事を1～2つ程度選んで切り取りワークシートに貼付させ、その記事に関心を持った理由などを記入させる。

< 留意点 >

一面から最終面まで、社説や人の取り組みの紹介欄なども含め目を通すよう促す。

< 実践の成果と課題 >

生徒がゆっくり新聞に目を通すことができた。記事を選ぶのに時間がかかる者

もいたが、複数の新聞を見る生徒も多く、新聞に親しむ時間を持てたと思う。

選んだ記事の背景についての考察をし、その記事に関する意見を他者と話し合う時間が十分に持てなかった。

実践報告② 新聞活用授業② 新聞のコラム要約

< 教科・科目 > 総合的な学習の時間 1時間

< 日時 > 平成27年6月29日

< 学年 > 第2学年

< 対象 > 総合的な学習の時間 278人（普通科全員）

< 学習活動 >

新聞（平成27年5～6月に発行の新聞。6紙混合）を1人あたり2～3部配布し、興味あるコラム記事を1つ選んで切り取りワークシートに貼り、語句の意味調べや要約をする。



< 留意点 >

複数の新聞を見て、興味のあるコラムを探させる。

< 実践の成果と課題 >

内容や難解な表現のコラムを選んだ生徒は要約に苦労していたが、知らない語彙を辞書で調べたり他の生徒に聞いたりするなど、積極的に要約作業に取り組んでいた。

実践報告③ 新聞記者による講演会

< 教科・科目 > 総合的な学習の時間 1時間

< 日時・場所 > 平成27年11月11日 本校体育館

< 学年 > 第2学年

< 対象 > 総合的な学習の時間 278人（普通科全員）

< 講師 > 川畑 展之氏（毎日新聞社姫路支局記者）

< 演題 > 新聞の読み方・新聞の作り方

< 実践の成果と課題 >

新聞記事は一般原稿とは異なり最初の1文で内容の概要を伝える必要があるため逆三角形型になって



いることや、新聞の作成・配送には多くの過程がある実態を改めて知った。インターネットと新聞の違いを認識し、両者を活用する必要性についても話があり、新聞と記者の仕事についての見聞が深まった。

実践報告④ 新聞活用授業③ 科学教育類型課題研究における新聞活用

<教科・科目> 総合的な学習の時間（課題研究） 3時間

<日時・場所> 平成27年11月2日、16日、30日

<学年> 第2学年

<対象> 科学教育類型生徒（27人）

<学習活動>

科学倫理と自然科学に関する事前学習を行う。

新聞を1人あたり3日分程度配布し、興味を持った科学倫理に関する記事を選び、自分の考えをまとめる。

その記事をどのような視点あるいは立場から見るができるかを考える。

<留意点>

科学倫理に関する記事に気づかせる。

一つの記事を複数の視点で見るようにし、他の生徒と意見交換をする。

<生徒の反応>

この授業の後、「新聞の読み方が変わった」「自分の関心に答えてくれる記事を探すようになった」「記事をより深く読むようになった」というような感想が多く聞かれた。

<実践の成果と課題>

科学教育類型の生徒が将来目指す科学や医療の分野においては高い倫理観が求められる。それに備え、高校時代から科学倫理を踏まえて社会の物事を考察する習慣をつけさせたいと考え、新聞を活用する一連の授業を行った。生徒は新聞には多様な記事がある事実を知ると同時に、その記事の内容や出来事についても多様な見方ができることを実感した。

実践報告⑤ 新聞活用授業④ 人権教育HRにおける新聞活用

<教科・科目> HR（人権） 2時間

<日時> 平成28年1月27日、2月3日

<学年> 第2学年

<対象> LHRの時間 318人（普通科・生活情報科全員）

< 学習活動 >

新聞から、人権に関する記事や情報を収集し、各自レポートを作成する。似ているテーマ別に班を作成し、班別に模造紙にまとめる。各班の発表を聞き、各自振り返りシートをまとめる。



< 留意点 >

人権に関する記事に気づかせる。また、他の班のレポートを読み、さまざまな人権の問題に気づかせる。自分の意見をまとめ、班員と意見交換をさせる。

< 生徒の反応 >

ある記事が人権に関するものであるかどうかの判断や、記事の選定に時間を要する生徒もいたが、世の中には人権に関わる場面や事柄が思いの外たくさんある事実気づく生徒が多かった。

< 実践の成果と課題 >

各生徒により視点が異なり、さまざまな記事が集まった。また記事に関する事柄を掘り下げて考えるには、多様な視点や知識が必要となると感じる生徒が多かった。記事の発表後、話し合う時間を十分に確保する必要があると感じた。

3. 成果と課題

今年度6月22日に実施したアンケートでは、平素「新聞を全く読まない」と回答した者が2学年の生徒278人中159人(56%)という結果があり、日常の中であまり新聞に親しんでいない生徒が多いと感じられたが、このNIE活動を通じて多くの生徒が、新聞は社会や世の中の出来事や他者の考えを知るための身近で有用な手段であることを実感したと思われる。新聞活用授業では、新聞記事を介して自然に意見を交換する場面が多く見られた。ただ、時間的な制約などもあって、自分の意見を「書く・まとめる・発表する」といった取り組みが十分にできず、表現力の養成には至らなかった点は今後改善して行きたい。